

機関番号：34504

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21720104

研究課題名（和文） ヘミングウェイ文学とメディア・プロパガンダ研究

研究課題名（英文） A Study on Hemingway Literature and Media Propaganda

研究代表者

塚田 幸光 (TSUKADA YUKIHIRO)

関西学院大学・法学部・准教授

研究者番号：40513908

研究成果の概要（和文）：

本研究では、アーネスト・ヘミングウェイの文学と、1930年代におけるメディアの政治学／プロパガンダとの関係を考察した。ヘミングウェイの周縁的な作品、例えば戦争ジャーナルや左派系ドキュメンタリー映画、特にヨリス・イヴェンスと共同制作を行ったドキュメンタリー映画『スペインの大地』（1937年）に焦点を当て、そこに見出される政治的・文化的な意味を見つめ、ニューディールのメディア・プロパガンダとヘミングウェイ文学、或いは彼の政治的転向との関係を探った。

研究成果の概要（英文）：

This research is intended as an investigation of the relationship between Ernest Hemingway's literature and the media politics/propaganda in 1930s. It focuses attention on the historical-cultural context of Hemingway's minor/marginal works such as journals and left-wing documentary films, and also attempts to illustrate the process of making the film, *The Spanish Earth* (1937) to explore New Deal "media" propaganda in 1930s and Hemingway's political conversion.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,100,000	330,000	1,430,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：ヘミングウェイ、プロパガンダ、視覚文化、映画、表象

## 1. 研究開始当初の背景

アーネスト・ヘミングウェイは、アメリカと民主主義を代表／表象する文化的アイコンでありながら、極めて複雑な「政治的」立場を取る作家でもある。第二回全米作家会議に

おける演説「作家と戦争」に象徴されるように、スペイン内乱に参加後の1937年以来、彼は左翼的思想へと歩み寄っているからである。37年の『持つと持たぬと』、38年以降に発表されるスペイン内乱を主題とした短編群、そ

してキューバにおける「国民文学」『老人と海』に至るまで、彼の文学と左翼思想との関わりを示す作品は多い。54年にノーベル文学賞を受賞した「アメリカの国民作家」が、キューバでも国民作家であるという事実からも、その複雑な立場を見ることができる。

だが、ヘミングウェイと政治との関わりについては、数多の作品論（小説論）に比して、十分な議論がなされているとは言い難い。民主主義やファシズムというイデオロギーからヘミングウェイ文学を読み解く批評が主流であり、彼の政治的「転向」、いわば全米作家会議以前のスペイン体験に関しては、批評の空白地帯に近いのである。共産主義者の映画監督ヨリス・イヴェンスとヘミングウェイが、37年に共同製作したドキュメンタリー映画『スペインの大地』や、この映画製作と並行して書かれた「北米新聞連盟（NANA 通信）」の研究などは好例だろう。小説以外のメディアとヘミングウェイとの関わりは、「文学研究」では見落とされているのである。「ドキュメンタリー映画と戦場ジャーナルからスペインを見る」というヘミングウェイの視座は、30年代の左派系ドキュメンタリー映画の流行、そしてその背後にあるニューディール期のメディア政策とも無縁ではない。彼の政治的変貌は、同時代の「メディア」と密接な関わりがある。だが、文学研究における「メディア的視座」は軽視されている。

以上の背景により、本研究を通じて、このテーマをさらに深化させたいと考えて申請した。

## 2. 研究の目的

本研究では、20世紀アメリカを代表する作家アーネスト・ヘミングウェイの文学と、1930年代の視覚メディアの「政治性」、つまりメディア・プロパガンダとの関係に焦点を当てる。スペイン内乱とメディア（ドキュメンタ

リー映画／戦場ジャーナル）との関わりから、ヘミングウェイの政治的変貌の痕跡を辿り、同時代の「文学とメディアをめぐる状況」を再解釈することを目的とする。パブロ・ピカソの反戦絵画『ゲルニカ』と同年に制作され、「映画のゲルニカ」と呼ばれる反ファシズム・左派系ドキュメンタリー映画『スペインの大地』（1937年）の制作をめぐるヘミングウェイとヨリス・イヴェンスとの関係を軸に、ニューディール期のメディア・プロパガンダ、左派系ドキュメンタリー映画、そしてヘミングウェイ文学の交点を探り、複数の「メディア」から浮かび上がるヘミングウェイ文学とその政治性に関する新たな解釈を試みる。

## 3. 研究の方法

本研究は、メディアとヘミングウェイ文学の交点を、ジャーナルやドキュメンタリー映画を通じて行う独自のものである。ヘミングウェイ文学の「周縁的」な要素から、その本質を逆照射することに特徴がある。この課題に取り組むために、方法論的に以下の三つの分析視点を掲げる。

（1）スペイン内乱期におけるヘミングウェイの書簡、特に「ヘミングウェイ－イヴェンス」書簡の調査を行う。左派系映画監督イヴェンスは、スペイン内乱の案内人であり、ヘミングウェイの政治参加の契機となった人物である。二人の交流の痕跡を書簡に探る試みである。この書簡は、アメリカ・ボストンにあるケネディ図書館の「ヘミングウェイ・コレクション」にしか所属されておらず、所定の手続きを経た研究者にしか閲覧が許されていない（コピーは厳禁で、持参のパソコンにデータを打ち込むしか方法がない。著作権の問題から論文への引用も制限）。闇に埋もれ続けているこの往復書簡を考察し、ヘミングウェイの政治に対する視座の変化を見る。

(2) (1) の往復書簡や北米新聞連盟通信の調査を踏まえ、左派系ドキュメンタリー映画とヘミングウェイ文学との関係を考察する。「非政治的」とされた作家が、如何にして政治的な作家へと変貌を遂げ、それを文学へと昇華させたのかという軌跡を辿る。加えて、映画史の視点から、30年代の左派系ドキュメンタリー映画との関係とその意義も考察する。ニューディールの政策に顕著だが、右寄りのこの国策が限りなく共産主義的であることを暴くうえでも、イヴェンスらのドキュメンタリーは重要である。

(3) ニューディール時代の農業安定局 (FSA) が行った写真プロパガンダとヘミングウェイ文学との関係を探る。農業安定局は、プロの写真家を雇い、アメリカ国内の貧困農民層を、威厳ある個人、あるいは困難に立ち向かう強き人間として写真に捉えていた。ウォーカー・エヴァンスやドロシア・ラング、ベン・シャーンなどの写真家が撮った農村風景は、イヴェンス／ヘミングウェイの『スペインの大地』で描かれる風景に限りなく近い。政府系機関のメディア戦略と左派系の芸術作品の接近を考察することは、その一翼を担うヘミングウェイ文学に限らず、ニューディールの新たな側面を映すことにもなる。

#### 4. 研究成果

本研究は、アーネスト・ヘミングウェイの文学と彼の生きた1930年代を軸に、モダニズム／ファシズムのメディア政治学に関する考察を行った。

ヘミングウェイ文学に関しての成果は、『メディアと文学が表象するアメリカ』（英宝社、2009年）に寄稿した論文「エレファント・イン・ザ・ズー——ヘミングウェイとターザンの「アフリカ」

「アフリカ」——」があげられる。1930年代におけるヘミングウェイ研究では、「アフリカ・サファリ」と「スペイン内乱」の考察が不可欠である。この論文は、「アフリカ」をめぐる作家の想像力のあり方と、同時代のメディア・イメージとの交点を探るものであり、アメリカの欲望が投影された「アフリカ」の意味を、同時代のナショナル・アイコン、ヘミングウェイとターザンというメディアの寵児を通じて分析した。また、米国ボストンのケネディ図書館（ヘミングウェイ・ルーム）における一次資料のリサーチを通じて、スペイン内乱から第二次世界大戦にかけての書簡やジャーナル、マニエスクリプト等、書籍出版されていない資料を精査した。この成果の一部は、2010年10月に開催された文学環境学会の韓日合同シンポジウムで、ヘミングウェイ文学における身体と狩りの政治学について、1930年代から50年代への変化とポストコロニアルな状況との関わりから論じた。同年12月には、ヘミングウェイ協会全国大会シンポジウム「ヘミングウェイと映画」で、司会兼講師を務めた。ここでは、ヘミングウェイと彼の同時代のメディア的状况との関わりを「視覚」と「フレーム」をキーワードに論じた。

「スペイン内乱」に関しては、ヘミングウェイが書いたジャーナル「北米新聞連盟」の記事の分析を中心に、戦争表象から見えてくる政治性を考察した。この記事は、ドキュメンタリー映画『スペインの大地』と同時進行で書かれている。これにより、「イヴェンス書簡」を分析する上で不可欠である記事の整理を終了した。この成果は、2011年10月のアメリカ文学会全国大会で発表が決まっている。

「メディア研究」に関しては、第二次大戦期の映画／映像における戦争表象とその政治性／プロパガンダを考察した。特に、映画の「戦争表象」に関しては、拙著『シネマとジェンダー——アメリカ映画の性と戦争』（臨川書店、2010

年)の第2章で詳しく論じている。ここでは、映画が「弾丸」として、映画人が「軍人」として戦時協力を余儀なくされた時代、映画が如何なる意味を有し、戦時協力とは何であったのかを考察した。当然のことながら、この時代はヘミングウェイの生きた時代であり、彼の文学と無縁ではない。また、『映画とネイション』(ミネルヴァ書房、2010年)に寄稿した論文「ナショナル/ファミリー・ポートレート—『パリ、テキサス』とロード・ムーヴィーの政治学—」も成果の一部である。本稿は、アメリカン・ドリームの政治学に関する考察であり、ナショナル/ファミリー・イメージが如何にアメリカの欲望を映し出すかに焦点を当てた。

このように、ヘミングウェイ文学と表象文化研究、或いは映像文化論の視座から、ジャンル横断的な考察を行い、ヘミングウェイとメディアの政治学を論じた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

- ① 塚田幸光、「皮膚とジェンダー—『羊たちの沈黙』におけるセクシュアル・ポリティクス」、『言語と文化』、関西学院大学言語教育研究センター、査読なし、第13号、2010年、pp. 103-124
- ② 塚田幸光、「ラストダンス・イン・ハリウッド—カザン、タルバーグ、『ラスト・タイクーン』—」、『日本F・スコット・フィッツジェラルド協会NEWSLETTER』、日本F・スコット・フィッツジェラルド協会、査読なし、第24号、2009年、pp. 5-10

[学会発表] (計 7 件)

- ① 塚田幸光、「Becoming/Framing Soldiers—

ハスフォード、キューブリック、『フルメタル・ジャケット』—」、日本英文学会関西支部第5回大会シンポジウム「英米文学と映像」(大阪市立大学)、2010年12月18日

- ② 塚田幸光、「Framing Desire/Hemingway—四角、斜線、視線—」、日本ヘミングウェイ協会第21回全国大会シンポジウム「ヘミングウェイと映画」(関東学院大学)、2010年12月12日
- ③ 塚田幸光、他、「読書会のススめ—その教育的意義を考える」、日本英文学会関東支部第4回大会英語教育部会公開ワークショップ(慶応義塾大学)、2010年11月6日
- ④ 塚田幸光、「Caribbean Blood Cross: Eating and Body Politics in Ernest Hemingway's *The Old Man and the Sea*」、The 2<sup>nd</sup> ASLE-Korea and ASLE-Japan Joint-Symposium on Literature and Environment (Sungkyunkwan University, Seoul, Korea)、2010年10月31日
- ⑤ 塚田幸光、「Scandal/Japan: Sexual Politics in Koji Wakamatsu's Early Works」、Kinema Club X (Panel: Re-imagined Communities: Undoing the Relationship of Gender, Sexuality, and Nationalism through Postwar Japanese Films) (East-West Center, Honolulu, Hawaii)、2010年7月30日
- ⑥ 塚田幸光、「Cold War, Hot Blood—ポー、コーマン、恐怖映画—」、日本アメリカ文学会第48回全国大会シンポジウム「今一度冷戦を考える」(秋田大学)、2009年10月11日

- ⑦ 塚田幸光、「ファミリー・オン・ザ・ロード『リトル・ミス・サンシャイン』とアメリカン・ドリームの行方」、映画英語教育学会関西支部大会シンポジウム（帝塚山大学）、2009年9月26日

〔図書〕（計 3 件）

- ① 塚田幸光、「ナショナル／ファミリー・ポートレイトー『パリ、テキサス』とロード・ムーヴィーの政治学」『映画とネイション』杉野健太郎編、ミネルヴァ書房、2010年、pp. 177-206
- ② 塚田幸光、『シネマとジェンダー アメリカ映画の性と戦争』、臨川書店、2010年、pp. 1-253(+19)
- ③ 塚田幸光、「エレファント・イン・ザ・ズー——ヘミングウェイとターザンの「アフリカ」——」『メディアと文学が表象するアメリカ』山下昇編、英宝社、2009年、pp. 224-246

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.kwansei.info/html/36906.html>

（関西学院大学法学部 塚田幸光研究業績）

## 6. 研究組織

### （1）研究代表者

塚田 幸光(TSUKADA YUKIHIRO)

関西学院大学・法学部・准教授

研究者番号：40513908